（二日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭日　第一第三日曜
定價（壹枚二錢、壹ヶ月五十錢、郵税十錢）
廣告料（雜報欄行五十錢、場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

勞農黨を排擊せよ

彼れ等の陰險な戰術

勞農黨はその掲ぐる主義綱領によつて、その據つて立つの根本的指導原理によつて、日本に於ける共產黨であり、勞農ロシアの第三インターナショナルの訓令を奉ずる黨派であることは明白疑ふべからざるものであることは本紙の屡說しきたる所である。而して今回の總選擧に當つて衆議院議員候補者を立てたるもの四十一名にして、その票數は八萬九千餘といふ多數を得全國二十五府縣に亘つて、著大なる勢力を扶植するに至つたが、この總選擧に於て獲得したる勢力を維持し擴大せんとする運動は選擧後少しもその手數を緩めることなく、全國各地に進出を試みつゝあることは昨今本紙の報導する所である。

◇

彼等は、全國各地方に於て、具體的に如何なる方法を以て勢力擴大を策しつゝあるか。その方法戰術は從來の彼等のテーゼに指示しつゝある所であるが、第一は彼等の同志を治青年團、在郷軍人會、產業組合、自治體に入り込ませ或は私かにスパイの役を勤めさせ（先般警保局内スパイの例があつたことは本紙の既に報じた所である）或は公然と役員議員として割込み各團體の缺陷弱點をあばいてこれを社會に暴露公表する戰術である、彼等はこれを稱して「内面爆破」の戰術といつてゐるのだ。

◇

「内面爆破」を行つて然る後如何なる手段に出づるか彼等は「請願運動戰術に出づるのだといふ。それは各團體の所屬官廳監督官廳に對して、之等の缺陷弱點を是正するやう請願書を作成して提出し、若くは單に請願運動を起したしこの請願の題擴大す、地方人を自己の勢力下に置かうとするのである、此請願運動なるものは表面まことに穩當にして正當なるものの如くであるが、多數の地方人をこれに參加せしめることが出來るのであるが、一旦この請願運動に加入する時はその因緣から漸次彼等共產派の同志として捲き込まれて了ふのである。

◇

「内面爆破」後の戰術は、唯「請願運動」だけではないこれと並行して「大衆運動」と稱する「直接行動」である演說會講演會後ことさらに無理矢理に警察の取締を受くべき行動に出で、而して警察官憲の取締を受くるや「警官横暴」「專制政治」「干涉壓迫」「虐政」だと叫び立し一般の同情を集め、これによつて同志を集め結成せしめやうとするのである。

◇

この「請願運動」を「大衆運動」に結びつけることによつて、彼等は「大衆を戰ひ取る」のだといふ。戰ひ取られた大衆こそ、いゝ面の皮だといふべきだ。これ程國民に對して侮辱し愚弄した話はない。大衆なる國民、殊に地方民に戰ひ取られる、換言すれば奪取さるゝ對象物なのだ。けれども彼等の戰術の内容を知らない地方國民に、彼等の陰險巧妙なる戰術に乘せられてうま〳〵と彼等の運動の渦中に捲き込まれ、彼等の勢力中に加はつて了ふのである。

◇

一切の彼等共產派、戰術を暴露せよ。一般國民は、先ず知つて置くことだ。知つて置きさへすれば決して欺されることはない。根本は彼等が非祖國派であり、非日本派であり非國民であるといふことをよく〳〵銘記して居ることだ彼等の一切の企劃と會合と宣傳とをボイコットせよ地方の愛國同志諸兄よ彼等の戰術を暴露し地方民に彼等の詐術を知らしめ而して共產黨の凡ての催しをボイコットすべく總努力を集中せよこれは我等愛國主義者の否國民としての義務である

明日の吉凶

舊曆二月十二日　新曆三月三日

△一白　順調には向へばあ相談事は調知とるべし△二黑　一家能く氣が揃ひて圓滿裏に仕事の運ぶ日△三碧　内外協調を保ち健全に進めば出世の途開く△四綠　苦を通り拔けて追ひ追ひ吉運に向ふ日たり△五黃　念その宜しきを得ば意外の發展を見る日△六白　定業以外の事業には成るべく手控を要す△七赤　川を望み舟橋なき如く進路の塞がり勝ちの日△八白　氣を緩めてはげめば物事通達すべき吉日たり△九紫　迷ふ事あらば長者の差圖に依るが安全なり

講談

闇に閃く男達

(29)

高田涙川作
尾崎雪廼齋

怪猫にあらで武士

武士は重太郎の切りこむ刀をヒラリ体をかわした

「コリヤ無禮をいたすな拙者は決して妖怪でないぞッ」

「いふな怪ねこ一度ならず二度三度その手を食ふ重太郎ではない、イザ引導渡しくれる」

又もや縱横無盡面を振らず切り込むを右にかわし左によけ、エーッと飛びこんだ、武士重太郎の利腕を一つヤッと打、修練の一擊何かは以て堪るべき腕はしびれて一刀を取り落した

「コリヤ重太郎とやら、拙者の申す事をよく承れ、拙者は決して妖怪變化にあらず、越前福井浪人にて中原幾太と申すもの、諸國修業のうち先日水戸に於てこの極樂庵の事を承りその實否をたゞすべく今日參りし處然るに夜半となり表口より入る一人の少年がある斯る所へ少年一人で來るとは不思議千萬、或はこれが妖怪の仕業にはあらざるかその眞相を見極め一刀の下に切り捨てんと本堂の片脇に様子をうかゞひをつたのだ、少年ながらも大膽不敵なる汝の行動、然し殘念な事にはとても汝の手で百日千日來るとも當庵の怪物を退治する事は思ひもよらぬそれは何故かと云ふに豪膽にして物に勵せぬ精神はあれど悲しい事には武藝を知らぬからである、彼の怪物はたしかにこの裏手の竅の中に住む者と見定た決して急ぐに及ばぬ、明日汝と共に退治するであらう、それにつけ汝は何れの者で父は何と申すか」

武士は妖怪變化ではなかつたのである

「ハヽア恐れ入りました私はこれより十二三町隔てましたいたどの町、善兵衛と申す者の宅に厄介となつてをりますもの、仔細あつて處の名は由上げかねますが私は渡邊重太郎と申しまする」

「フムさてはその方は水府の御家來渡邊重兵衛といへる人の息子であらう」

「エッ……それをどうしてあなたが御存じでございまする」

「イヤ別に仔細と申すほどの事もないが先刻も申し如く武藝修業の爲水戸に入り込み御指南番と一本の仕合をいたしたる節御馬廻り役の渡邊重兵衛といへる人は眞影流の劍法に達しをらるゝときゝわざ〳〵試合を願ひし處ナカ〳〵の御手の中、しかし三本の中二本まで勝利を得しは畢竟拙者に花を持たせ下されし事と存ずる、その節人々の噂には重兵衛殿の嫡子重太郎といふは事情あつてさる所に預けられをるとの事また御身の家庭の事情も承はり實じ入つた、然るに只今御身は渡邊重太郎と名乘られ、且重兵衛殿の面ざしに瓜二つ故、もしやと思ひ尋ねて見たのでござる」

「左様でございましたか、いかにもお尋ねの通り私は渡邊重兵衛の一子重太郎に相違ござゐません」

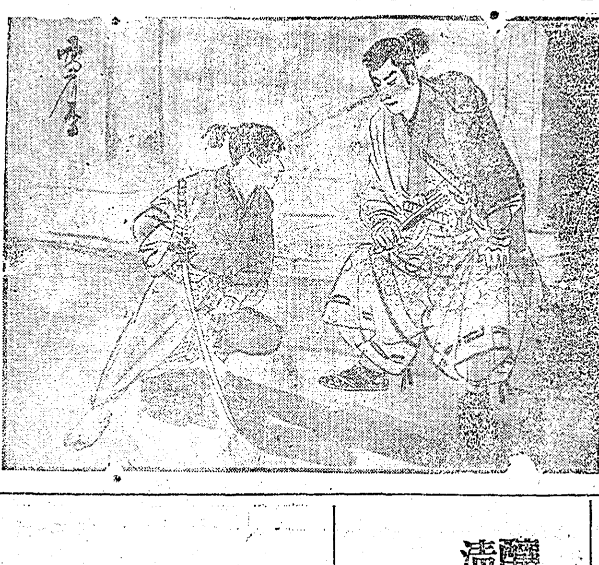
不思議な邂逅に種々物語りをなす中、次第に東の空は白みきて夜はすつかり明けはなれた。

「それでは中原先生には諸國修業の御身、これからどこへと目的もございますまい、兎も角一應私の所へた立寄り下さいませ」

「左様かな、今日は當庵の怪ねこを退治するつもりであるがその方も關係する事なれば兎に角善兵衛とやらに面會をいたさう、少々話したき事もありどうか同道いたしてくれ」

「承知いたしました、それではお伴いたしませう」

重太郎は中原幾太を同道していたどの善兵衛宅へ歸つて來た、一方善兵衛の宅では朝早く善助が重太郎の部屋へ來て見るとその姿が見えない便所へでも行かれたかと思つたがそうでもない、何だかおかしいとふと床を見れば刀架けにあるべき貞宗の一刀が見えぬ、善助は大いに驚いたもしや水戸の實家は二男秀之助が家督相續と定まりしものと思ひ憤慨の餘り繼母や義弟の一命を斷つべく家を拔け出たのではあるまいか、萬一の懸念があつたから早速父善兵衛に話しとに角水戸へ氣の利いた子分をやり樣子を採らさうといふ事となり、大切な預り人萬一の事あつては大變だ善兵衛の宅は上を下への大騷ぎとなつたのである



超特別大興行

昭和三年度日活代表的大傑作

彌次喜多韋駄天の卷

三月二日より

原作脚色　池田富保　主演　河部五郎　大河内傳次郎

彌次喜多の奮戰…闘六の重傷…韋駄天丸と休息丸の効め。安田の快力…染め香の死…國家的夫婦喧嘩彌次喜多の出征……

日活幹部俳優總動員　大連鎖　時代劇史　燃ゆる渦巻　第一篇　關西派超特作大映畫

御好み映畫往年斯界を壓せし松之助得意の殺陣…故尾上松之助が心血を注ぎ、完成せる大衆幕末史………

△松竹蒲田帝王篇　原作　菊地寛　婦女界連載　受難華姉妹編　新珠（にひたま）

諸口十九、奈良眞養、松井千枝子　瀧田靜子、筑波雪子、鈴木傳明

現代映畫の帝王、大松竹が他社の絶對追從を許さゞる内容に完成せる本映畫こそ、群ふなる類似映畫を一蹴する本壘打である

入場料	二等	一等	特等
大人	四〇	五〇	六〇
小人	一〇	二〇	三〇

土曜日曜學生デー

日活松竹高級常設　平館　電（四六六）

釀造元　石城小名濱町　清水屋　小野晋平　電話六番

銘酒　清世界

各炭鑛御用達

内科、小兒科、花柳病科　入院應需

藤沼醫院

平町紺屋町　電話平長五〇七番

入院隨意（自炊の便あり）

X光線科　外科專門

平　南町　上田外科醫院　電話一二九

鐵筋コンクリート　鐵骨組立　和洋建築　文化式建築　設計監督

土木、建築、請負業　合資會社　丸三森川組　社長　大森鎮平

東京日本橋區茅場町二〇　電話茅場町66四五二番

生花教授

池ノ坊流　生花を懇切丁寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい

平町五丁目（釜屋横町）　須藤まつの

ホシ美石鹸

石鹸物語

一　新しくホシ美石鹸が生れました。此の石鹸が市場に出るに就ての因縁を一通りお聞き下さい。

二　元來、石鹸は化粧品と云ふよりも、寧ろ保健用品であります。文明人は石鹸で身體を淨めますが、野蠻人は、石鹸を食べて了ひます。

三　日本で舶來石鹸が出來るなどと言つたら、皆さんは不思議にお思ひになるでせうが、舶來品と雖も神様が造るのではありません。

四　優秀な原料と、西洋の技師と、特種の機械とがあれば立派に舶來品が出來上るのであります。所在地は問題でありません。

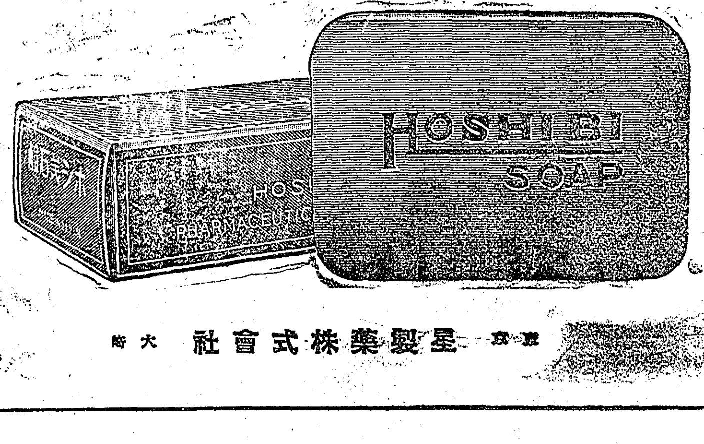
五　日本で造つた舶來品には輸入税も掛らなければ、運賃や保險の必要もありません。

六　ホシ美石鹸は、佛蘭西製の最も精巧なる自働機械に依り、最も優秀なる原料を以て自働的に造られます。

ホシ美石鹸が市場に出る迄の因縁話は、まアざつとこんなものです。

一個　二十五錢　半打　一圓五十錢

東京　星製藥株式會社　大阪



不倫な首席訓導を相手に
女教員から貞操蹂躙の訴へ
併せて二千圓の慰籍料請求
本郡教育界の不詳事

石城郡大浦村曾川久吉義妹當時四倉町私立裁縫技藝女學校教師曾川ヤイ（二八）と言ふ妙齢　美婦人が平町猪狩辯護士を代理人として當時本郡內郷村第一小學校首席訓導高木安孝（三假名）を相手取り貞操蹂躙並に二千圓の慰籍料請求訴訟を平區裁判所に提出したがその理由とする所は

去る大正十五年　三月、當時大野村小學校訓導として奉職してゐた原告ヤイが田舍には稀れな美貌の持主である處から當時同校訓導を奉職中の前記安孝から望まれて婚嫁した、流石に美貌の戀妻を得た安孝は新婚の當時こそ文通通りの睦じさで同僚達ちを羨ませてゐたが何時しか性來飽き易い多情な夫安孝はヤイへの愛も日を増すに伴れて薄らぎ殊にヤイが妊娠するや全く別人の警洞志の樣に虐待し且つては戀人であり愛妻であるヤイを自分の傍にも置かず遂には何の彼のと因緣を擔ぎ出し妊娠中のヤイを離緣する暴擧を爲すに至つたが互に教員ではあり恥を世間の明るみに出すよりはとヤイは泪を呑んで其のまゝ離緣されて今日に至つた安孝はヤイと結婚する以前から矢張り同小學校の女訓導で現在豐間村小學校訓導鈴木孫子（假名）と情を通じヤイを離分後何時かまたトヨと情を通じ始め事もあろうに夫婦氣取りで居た事が最近になつてヤイが知り自分は單に自分の美貌と處女の誇りを結婚てふ美名に隱れて蹂躙する殆んど色魔にも近い男の惡手段に依つて弄ばれたものであると斯くは訴訟の擧に出でたもので

近來教育界の風紀問題が喧しく論議されてゐる折柄さて該問題の成行は各方面から頗る注目されてゐる

哀話
家を出て
貧苦の少年清君が
平署で保護中

平驛前附近を昨一日午後九時頃泣きながら彷徨してゐる擧動不審の十五六才位の少年があるの、柴崎刑事が發見し事情を訊した處

此の　少年は茨城縣多賀郡助川町日立礦山製作所職工今野清吉長男清（一五）で母が死亡後父の手傳助けをしながら二人の弟妹の子守りをする傍ら納豆賣りをして家計を助けてたが友達等は各れも正服正帽で學校へ通つてるのを見れば小供心にも流石に恥しく一層知らない處に行つて一働きし先ず商店の小僧にでも住み込まうと將來の大實業家を

夢み　納豆賣りをして貯えた三圓の貯金中一圓を下げて旅費に充て無斷家出し助川驛から乘車して來たものであるが見も知らない土地に來ては今更の樣に父や弟妹を思ひ出し宛どなく彷徨ふてゐたもので平署では直ちに助川署に照會置父に引渡すべく手配中

苦境の切拔手段に
賃銀一割値下
昨一日から斷行を
磐城炭礦で聲明

常磐各炭礦は財界の不況に依り炭價の

暴落し何れも四苦八苦の窮狀にあることは屢々報導した如くであるが、小炭礦は何れも休山の止むなき狀態に至つた、殊に大炭礦に至つては多數の勞働者を使役してゐる關係から其窮狀は豫想も出來ないほどで各炭礦共從業員　淘汰をなすであらうと言はれてゐた矢先三月一日から突如磐城炭礦株式會社では從業員坑夫、雜夫その他使役人全部の賃銀

一割宛の値さげを斷行することを宣言した、これを聞えた從業員は非常に狼狽し何等かの策を講ずべく寄り〳〵協議中との事であるが炭礦側では「此賃銀値さげ問題について今回の賃銀一割値さげ斷行について一般從業員は目下の財界不況を知つて之を問題にして會社に對して反感を起し不平をかもすやうな事はあるまい」と語つて、多數組合員を有する日本坑夫組合磐城炭礦支部では「目下の

不況に一割値さげの斷行は會社當局があまりに無謀極まるものである、何等かの對策を講じなければならぬ」と言つてゐる

五錢を善用して
乘客の座席取
これから混雜期に
赤帽クンの御難

何個あらうと一人の荷物を運搬して金五錢の運搬料を貰ひ乍らそれ下帽子から洋服まで自辨と云ふ停車場の赤帽クンはそれで仲々御內輻とはどんな

收入があるのかと訊ねて見ると昔では……景氣のよい頃には氣前よく、ちよつと鞄一つもたしても五十錢玉一つ位になつたのだが今では左樣なのや無く金二十錢か三十錢で寢臺代りをしようと云ふ營盤高い紳士によつて辛うじて收入を相留に上げてゐると云ふのだと云ふのは外でも無いがそうした紳士連はちようとした鞄や毛布位もたして五十錢も與へて列車內の座席をとつて置くやうにたのむと赤帽クンは早速承知之助とあつて一般旅客の乘り込まぬ裡に列車內に入り毛布を廣々と擴げて橫になられる位の

座席をとつて置く……

其處へ五十錢か三十錢をハヅンだ紳士淑女連はどんな混雜する時では後からい〳〵し悠々と座席をうる譯が出來ると云ふのである、斯ふした弊害は彼の輕便枕の時にも盛んに起つたので遂に輕便枕は廢されたのであるが此赤帽を惡用しての座席取りもあまり不德だし春季の如き混雜期には大いに考へねばならぬ事であるとあつて鐵道でも夫れ〳〵注意の眼をひからす事になつた

自動車に「押」され
『挽』けぬ人力車
生活の大問題だと
其の筋へ歎願

平驛構內に從來營業自動車を列車時間待合せ　ためには

停止せし　めない方針

をとつて來た、之は驛を中心に生活してゐる人力車を脅威するものであるといふことが第一の理由であつた而し今回平驛を經由せず直接東京鐵道省に驛構內に自動車停留の許可を願ひ出で營業者が續出し平驛に本省から許可の可否について諮問があつたので、驛長は此のほど車夫組合　幹部を召集して懇談的協議をなしたか、驛長としては許可す方針らしく挽子組合では二十八日相談會を開　て協議した、挽子としては無警告で突然許可しないで今一ケ年間位延期して貰ひたいとの

布望をもつてゐる

者が多いから鐵道當局と今後種々接涉　重ねる事であらうが、鐵道では全部の營業者に許可するわけでなく若し許可するとすれば縣議補選は縣民政黨に取つて非常に痛手であると一段から觀測されて居る

湯上り老爺
汽車に轢る
娘は助かる

赤井村字田中農曾川政吉（五三）は去る廿八日夜晩酌に陶然となり娘ミサ子（二三）を連れ風呂に行つての歸途同村地內の鐵道線路に差掛つた際後方から驀進して來た平機關庫機關手及川榮三郎の運轉せる平發小川鄕行き最終下り列車の汽關車を避ける閑なく跳ね飛ばされ頭部其の他全身に瀕死の重傷を負ひ昏倒したので應急加療したが及ばず廿九日午後三[illegible]遂に[illegible]屍体は平署市毛部長檢視の上で妻フミに引渡した

江名漁港の
竣工式
五月末に擧行

工費卅一萬餘圓を投じ漁船の避難港として如何なる暴風雨にも安全なドツク式築港完成した縣內第一の漁業地にある石城郡江名町では三年度を以て縣の補助金全額交付濟みとなるため來たる五月廿六日は同町鎭守諏訪神社の例祭に當たるを機とし盛んな竣功式並びに祝賀會を擧くる事となつたが各種の催しに同町空前の賑ひを呈するであらう

本村氏祝賀
昨日植田町に
盛會を極めた

本部南有志の發起に係る木村濟治氏の當選祝賀會は昨一日午後一時より植田座に於て開會出席九百餘名に達し定刻縣會議員古川傳一氏開會の辭を述べ安島重三郎金成通氏の祝辭演說の後木村新代議士の謝辭ありて宴に移り有志の五分間演說等あり非常の盛會裡に四時散會した

七才の大將が留守で
爐から障子に延燒
兩親は山に薪取に
永戸村の晝火事

永戸村大字下永井字輕井澤爲職鈴木留吉方から昨一日午前十一時突如發火し折惡しく家人が留守中であつたため同家一棟と共に家財道具一切を燒失し同午後一時鎭火したが急報に依つて平署から橋矢田部長急行出火原因其の他精密な課査[illegible]した結果出火の原因は留吉は當日長男尚喜（七）を留守居に置き妻と共に山に出掛けたもので尚喜は一人居の淋しさから爐火を弄んでゐる中火が障子に燒移り此の大事に至つたものであると尚損害は約一千圓位いである

磐中卒業式
來る七日擧行

磐城中學校第廿八回卒業式は來る七日午前十時より擧行する事となつた

肥料講習會
山田村農會の主催

石城郡山田村農會主催の一般肥料及堆肥講習會は七日頃村農會事務所に開催されるはずであるが講師に任に當る神尾農林技師は肥料選定及肥料と土壤の關係につき一般農村が比較的其研究心に乏しく往々にして失敗をまねぎ居るにかんがみ之れが實際の應用に適して講習を行つて見たいと語つてゐた

產業組合の
事業監査
尾形主事が

石城郡駐在尾形產業主事は來る十四日から次の如き日割で郡下各產業組合の產業監査を爲す事となつた

日割　十四日好間、十五日湯本、十六日玉川、十七日小名濱、十八日泉、十九日草野　以上

木村翁葬儀
昨日盛大に

石城郡湯本町有志木村重五郎氏の葬儀は既報の如く昨一日午後二時自宅出棺同町惣善寺に於て佛式により執行されたが縣議鈴木辰三郎氏外會葬多數同町稀に見る盛葬であつた、因に當日石城政友倶樂部會長安島重三郎氏の朗讀した

平局の移轉新築と
魚市場の移轉
行き先は大工町か
平町の二大懸案

平町の魚市場は石城七濱出荷の集散場として近年著しき發達を示し益々殷賑を極めてゐるが現在の市場所在地は町の中心なる四丁目にあり町民が市場雜沓時により蒙る迷惑は交通に衛生に頗る甚大なるものありしが之れが移轉說改良說に就ては屢々高唱されて來たが改良案としては現在場所として到底完全なる方法を施す途なく彼我共に其不便を忍んで來たが愈々四丁目へは無北に誇るべき大郵便局も建築される事となり平町文化の發祥地は現在市場府近となるので最早現位置に存續せしむる事情の不可能なるに迫られたので遂に其移轉說濃厚となり適當なる敷地の物色、着手せるが如く傳へらるゝに至りたれば早晚其實現と見るに至らべく敷地は大体大工町方面に假定されてゐる

磐城信用錄
目下豫約募集

平町長橋町吉村松三郎氏の主宰する東北商業新聞社では磐城信用錄を發刊すべく昨年來豫約募集中の處府縣會選擧につぐ總選擧等で引延されてゐたが來る七月五日發行の豫定で目下豫約募集中である

豐間漁港の修築
今年度より是非ともと
村長以下陳情

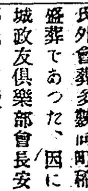
石城郡豐間村漁港修築問題は同村多年の懸案　であるが未だに實現期　至らぬが最近大敷網漁業の急激なる發展に伴ひ同港の修築は刻下の急務と叫ばれ、同村會は再一右問題につき協議し縣當局に陳情しこれが促進　努めて來つたが今回またも實現せしむべく　一日同村長志賀兼吉氏外村議數氏出縣、商工課に屢々陳情する處あつた、工費は約十五萬圓であるが之が實現　曉は獨り豐間村の發展にとどまらず隣接江名、高久、神谷夏井各村に及　ぼ影響に頗る甚大でひいては本縣水產業の發展上益する處少からずものと觀られてゐる

鈴木縣議歸平
福島から昨日

縣會議長鈴木辰三郎氏は衆議院議員選擧に當り石城政友倶樂部幹部長として東奔西走遺憾なき活動を續け木村氏の當選を見るや直後出福縣政上その他諸問題につき奔走中の處昨一日歸平した

石城水產會
總會
活動巡回映寫

石城郡水產會ではこの程小名濱町水產試驗場內で總會を開き三年度度豫算千七百一圓を議決したが新事業として縣や水產試驗場[illegible]豫算編成前に石城七濱營業者の水產議會を開き縣水產試驗場に對し水產業開發上必要な施設に對し陳情要求することとなりまた漁村知識の向上をはかるため活動寫眞の巡回映寫を行ふことに決した



◆遂ひこの間のことゝ仲の湯の濛々たる湯氣を破つて悲鳴四隣を驚かしたのは夜も更けた二時ごろ◆何事かと駈つけて見ると大形臼のやうな尻を花立にして花〇が板の間に倒れて目をゴバン目のやうに白黑にして泡を吹いてる〇花が懸命の介抱中だ◆これが寒さに凍りかゝつた肌を熱い湯槽に漬けたので湯氣を上げたものと分り、ヤレ〳〵危ふき一命が幸に取止まつたので先づは目出たし〳〵◆二月は花柳界の霜枯れ時、まして選擧といふ不景氣神の祟りで全く〳〵やり切れないさびれ方であつた、いよ〳〵三月からは景氣立直しの季節に入るんだから喜べ〳〵但し受合つたわけではないがネ。

平町南町
大和田醫院
電話一七〇番

時言

磐城炭礦が不景氣を理由に賃金一割値下げを宣言した處、勞働者側怨つて言ふのに

□

此の不景氣に値下げするのは酷だと騷ぐ、全体當節柄不景氣を喰ふまいとする了簡が違つてゐる

□

亦たしても教育界の不詳事件暴露す、教育者として神の如くなれと望むは無理であろうけれども

□

若し事實の如き不倫、非道極まる奴ならば彼への制裁は獨り當の原告のみに委ねるは餘りに寛に過ぎる

□

徹底的に排擊して爾後の懲戒に資すべき也

內科　外科　婦人科
小兒科。花柳病科。
磐城病院
平町田町本通り
（電話一一四番）
入院隨時

診察無料
如何なる重患でも直ちに癒る三丁目の大谷へ御出下さい
院長博士　敬白
大谷時計病院
電話一一九番

三月二日より超特別大興行
特に料金普通
マキノプロダクション傑作・松尾文人主演
現代劇　活動狂時代　六卷
あはれな唄聲をあげて黃昏の町を家路に辿る孤兒の影はものかなし……
マキノプロダクション特作　嵐長三郎主演
時代劇　百萬兩秘聞　第一篇　十卷
風死し月落ち一鳥啼かぬ幽靈野深夜古墳を撥く若侍——謎?たゝ白刃閃く……
帝キネ特作　尾上紋十郎主演
時代劇　梁川庄八　十五卷
奥州仙臺の脫藩牢破り庄八の豪傑ものがたり
帝キネ　マキノ
有聲座
電話（四四六番）

登錄商標
釀造元
福島縣平町
山崎合名會社
電話（營業部一〇番　釀造工場二七番）
振替東京一九七五五番
東京支店
上野車坂町四三
電話下谷五三七二番
振替東京六八三三二番

常磐第一ノ大炭礦タル
磐城炭礦ノ石炭
石炭ト「コークス」ノ特長
一、目方ノ正確
二、品質ノ優良
三、配達ノ迅速
ドーシテアンナ良イ品ヲ、ソンナニ安ク賣レルカト驚カレ一度使ヘバ永久ニ御使ヒ下サルノガ當店石炭ト「コークス」ノ特長デス
石炭は正十貫目一俵金六十五錢也
平驛前
阿部石炭商店
電話二二三七番